

平成 29 年 網走市議会  
総務経済委員会会議録  
平成 29 年 11 月 14 日 (火曜日)

○日時 平成29年11月14日 午前10時47分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 行政視察の取りまとめについて
2. 秋季視察調査について
3. その他

○出席委員（7名）

委員長	金 兵 智 則
副委員長	立 崎 聡 一
委員	松 浦 敏 司
	川原田 英 世
	永 本 浩 子
	古 都 宣 裕
	小田部 照

○欠席委員（1名） 渡 部 眞 美

○委員外議員（1名）

議長 工 藤 英 治

○事務局職員

事務局 長	大 島 昌 之
次 長	細 川 英 司
総務議事係主査	寺 尾 昌 樹

午前10時47分開会

○金兵智則委員長 それでは総務経済委員会を開催いたします。

初めに、渡部眞美委員より、公務のため本日欠席する旨の届け出が出ておりますので、皆様にお知らせをいたします。

本日の委員会は、行政視察の取りまとめについてと秋季視察調査についての2件であります。

まず1点目、行政視察の取りまとめについてであります。

行政視察の取りまとめ方法につきましては、7月11日開催の委員会で各委員が行政視察のレポートを提出し、その後、取りまとめることに決定しております。

あわせて、各委員より口頭での報告をしていただ

くこととなっておりますので、早速ですが松浦委員より順次、一言ずつ御報告をいただければというふうに思います。

○松浦敏司委員 10日から13日まで視察に行ったわけですが、初日の東京都の羽村市ですけれども、東京とは思えない非常に静かな市でした。

コミュニティバス「はむらん」について視察したわけですが、市役所に行く途中で、たまたま少し早目についたので、実際にコミュニティバスに乗りながら市役所に行くという当初予定になかった形でしたけれども、実際に乗車できて非常によかったというふうに思います。

それで、もともとは市としてコミュニティバスをやっていたけれども、利用が少ないということで一度廃止したと。しかしその後、懇話会などを開いてその中でやはり必要性を実感し、平成17年にコミュニティバス「はむらん」を運行開始したというような説明でありました。

そして、ここで私も運賃についてどうしても無料というのが、こういう場合料金の問題というのは結構あるのですけれども、ここは一切年齢にかかわらず小学生以下を除いて全員100円というような料金設定ということで、平成17年には再開したといえます。

当初のころは年間7万9,367人だったのが、平成28年度では18万6,918人ということで、大きく伸びていると。

なぜこんなふうに伸びるのかなということで、私たちの質疑の中でもありましたけれども、やはりターゲットをきちんと高齢者に向けているとか、あるいは交通の便の悪いところについてもきちんと視点を当てて、そういう人たちが実際に利用しやすい時間帯にダイヤを組むというようなことも行われていて、役に立っているといえますか、実際に羽村市民にとって役に立つコミュニティバスというふうになっていて、ダイヤの編成についてもしっかりと協議をして、必要な場合その要望に答えた形でルートを変えろということもしているということで、そういう意味では利用者の立場に立って、いかに利用してもらおうかという努力が非常に見えたといいまして、これはただ、当市との地形の違いや何かもある

りますし、面積が9.9平方キロメートルという小さなところで比較的平坦なところというのもありますけれども、ただやはりそういった意味での視点というのは非常に大事だなというふうに実感しました。

2日目の小田原市の観光戦略ビジョンについて、歴史のある町でありまして、非常に歴史を感じるところだったのですが、しかし、やはりこの観光戦略ビジョンという展望が大きい目標を立てて、大きな目標に向かって何をやるのかという点で、歴史なり、文化なり、実に自分たちの町の特徴をしっかりとらえて、そしてそれを最大限活用して観光客を取り込むと、網走市と同じように通過型の町なのだけれども、そういった意味ではしっかりと自分たちの特徴をとらえ、特徴を生かした形でのビジョンを持っているなということで、非常に興味させられたところです。

3日目の厚木市、これは防災ということで有名な市ですけれども、実際に「ぼうさいの丘公園」に行って施設を見て、本当に驚くばかりと。

やはり阪神淡路大震災、東日本大震災というようなことを経て、いわゆる備えあれば憂いなしというのか、そういう意味で徹底した形での取り組みというのは、非常に勉強になりましたし、ただ、お金のかかることです。

そして、備蓄も大量にしていますけれども、備蓄というのは期限が来れば更新しなければいけないという点でも相当費用がかかると。

しかしそういう中で、人命、市民の命を守るという点で非常に高い意識を持っていると、非常に参考になったかなというふうに思っているところです。

とりあえず、時間がありませんので、はい。

**○小田部照委員** 私からも羽村市コミュニティバス「はむらん」について簡単に感想を述べさせていただきます。

先ほどからお話ありましたけれども、一乗車100円ということで、大変利用しやすく実際に乗らせていただきましたけれども、電気バスは本当に音も静かだし、素晴らしいと感じて、通勤や通学をターゲットとはせず、高齢者や子育て世代をターゲットにして、運行時間も8時以降からということで、ほかの交通機関との競合を避けるようなルート工夫もしているということもありました。

課題としてルートをふやしてほしいとか、延ばしてほしい、変更してほしいと言ったような要望に

はなかなか対応し切れていないというようなお話もありました。

羽村市と網走市を比較しても面積が47分の1ということで、一乗車100円での事業ということですが、年間5,500万円ほどの赤字もあるということも考えまして、網走市ではこのコミュニティバスの運行というのは、運用範囲的にも金銭的にもちょっと難しいのが現状なのかなと感じました。

その中でも、市の職員が親切丁寧に対応するという「私の時刻表」というようなことは高齢者や障がい者などの人たちにも大変有効で、これは金銭的にもかかるものではないので、今すぐにでもまねのできるすばらしい対応であったと感じました。

次、小田原市の観光ビジョンですが、「歴史」「文化」「海」「山」「食」の5つのサブストーリー設定し、目指すべき姿、市が抱える課題などをそれぞれ解決する方向性から施策の柱を明確にして重点的に実施していくというような、ミーティングプロジェクトというもので具体的にいろいろと工夫されていると感じました。

その中でも、市民からのお勧め観光スポットコンテストなど、市民参加につなげている取り組みや、国からの交付金による「小田原さんぽ」など、小田原市の歴史や観光スポット、お勧めのモデルコースなどが紹介されるアプリケーションなどを立ち上げるなど、若者の意見とといいますか、若い世代の意見も取り入れた政策も目立っていると感じました。

小田原市の観光客の95%が日帰りの通過型であるということにも少し驚きましたが、日帰りという点でそれをさらに強化させて滞在時間を延ばすというような取り組みもいろいろ施策としてあるのだなと関心いたしました。

網走市においても、同じように若い世代の意見を取り込めるような交付金を使用した「小田原さんぽ」のようなアプリが実現できればなと思っております。

続きまして厚木市の防災対策ですが、実際に「ぼうさいの丘公園」を拝見させもらいまして、各種資機材の備蓄倉庫など非常に規模も膨大で驚きました。

約3万3,000人が3日分、地下に設置された貯水槽で、災害時には3日分の飲料水が確保されているという点も、規模の膨大さに驚きました。

もともと地震などの多い地形ということで、防災意識が非常に高い市なのだなど、改めて思いまし

た。

網走市でも大雪や台風のほか、海のそばということで津波の可能性もありますが、今までは比較的地震などの被害も少ないこともあり、防災に対する意識がやや低いのかなと感じる面も改めて感じましたので、防災意識の向上をさせる取り組みも必要だと改めて認識いたしました。

以上です。

**○古都宣裕委員** 私のほうからも、まず羽村市なのですけれども、面積が網走市の47分の1以下ということで、集約されている部分があって、バスの利用という部分でも一旦廃止になったということから、路線図を見直して平成17年に復活したときには、延べ2万6,620名で、現在では4路線にふえて5万5,000人越えの利用者があるということでありました。

市内循環というような形にしていますけれども、網走市でもいろいろな検討もあると思いますけれども、なかなか面積的にも広いという部分と費用対効果を考えると、難しい部分もあるかなと思って見ておりましたが、一樣に網走市の利用状況を見てみると、羽村市と同様に一度全てを見直して、時間帯並びにターゲットというのを洗い出しをした上で、税金を投入している以上黒字とまではならなくても、いま一度市内バスのあり方については、議論するべきときに来ているのではないかなというふうに感じました。

次に、小田原観光ビジョンについてなのですけれども、通過型として網走市と似た部分も共通する部分もたくさんあるのですけれども、やはり人口的な集まる部分で通過と言っても500万人以上は、観光として利用される。

また、アプリを使ったガイドなどでも、ARでの当時の再現とか新しい技術の創意も見取れましたし、それについては網走市としても、モヨロ貝塚などの再現として同じようなことができるのではないかなというふうに感じました。

食との連携が大事とガイドさんから言われているという話がありましたけれども、まさにそのとおりと私も感じ、北海道網走市としてもいろいろ売り出してはいますけれども、核として「何という食品」やら何か指針が示されているかといえば、そうではなく、全体としてぼやっとした全ておいしいですよというのでしたらインパクトに欠けてしまって近隣町村との、違いが鮮明にならないのではないかなと

いう印象を受けました。

施設としても、監獄とかモヨロ貝塚、北方民族博物館とかいろいろあるのですけれども、なかなかそれは知識的のほうが偏ってしまっていて、小田原ですと「忍者」といったことも子供向けしそうなアクティビティを出せるにもかかわらず、網走市はなかなか親子として子供が楽しめる部分が少ないので、そういった部分も考えていかななくてはならないのかなというふうな印象を受けました。

網走市の歴史と言っても北海道自体が、開拓150年ほどでほかの都府県に比べ歴史も浅いのですけれども、アイヌ文化やモヨロ文化を積極的に出すことで、そういった歴史の深さというのはフォローできるのではないかなということもありますし、網走市自身の独自性を出していかないと、北海道の中でも観光としての網走という部分を積極的につくっていく必要があるのではないかなというふうに改めて感じました。

最後に、厚木市の防災対策についてなのですけれども、あのような整然としたしまわれ方がなされているのを見たときに、同じふうにできるのかなという疑問と、こういうふうに整理されていることというのは、いざというときにその場所がわかり、その中に何が入っているかという職員が来られるとは限らないというふうなことを考えた時にこういうふうなコンセプトでしっかりつくられたんだなということを感じました。

障がいを持っている方に対しての設備等も、備蓄が十分にあることから、しっかりと考えられているという部分が大変すばらしいな、網走市もまねをしないではいけないなというふうな形で考えさせていただきました。

設備等でも、厚木市より北海道網走市のほうが季節の変動の気温差等も激しいことから、さまざまな時にさまざまな時期に対応できるような準備が必要であるし、また、あり方についてもいま一度検討し、高齢化の波も迫っていることから想定する避難者の数も年々変化していることからいろいろ考えるべき余地もあるのではないかなと思いました。

以上です。

**○永本浩子委員** まず羽村市のコミュニティバス「はむらん」のバスの運行についてですけれども、先ほどから皆さん言われていますけれども、羽村市の面積は9.9平方キロメートルで、網走市は471平方キロメートルということで約47から48倍になるとい

うことで、羽村市の取り組みをそのまま持つてくるということはなかなか難しいと思われまし、また、羽村市には日野自動車の工場があって、その工場が電気バスの開発に取り組んでいたということ、そして西東京バスという提携相手もいるために出来ている事業であるということで、こうした環境が整っていても、それでもなお運営経費の増加や利用者の伸び悩みなど課題があるということがわかりました。

また、一律100円というこの料金設定ですけれども、私たちにとってはとても魅力的なのですけれども、東京都はもうずっと以前から高齢者に対してはシルバーパスということで、路線バス全て無料ということが定着をしていて、ここで新たにまた100円を払うということも、もしかしたら高齢者にとっては負担感が大きいのかもしれませんし、さらに未就学児童は無料ですけれども、小学生以上は大人と同じ100円ということで、実際に高齢者や子供は無料にできないのかという声もあるということもお聞きしました。

そういったことで、まだまだ課題もあるのかなという思いもしました。

ですけれども、市庁舎の屋上に太陽光パネルを設置して、その電力で電気バスの電力全て賄っているという点とか、先ほど子供の話に出ましたけれども、「私の時刻表」という発想で一人一人の利用者に寄り添う形でのバスの利用促進のあり方とか、またバスの乗り方教室を開いて利用者をふやしていこうという取り組みは、網走市もこういった点は、大いに参考にできるのではないかなということを感じてまいりました。

次に、小田原市の観光戦略ビジョンなのですけれども、網走市の入込観光客数は一応、現段階153万人ということで、小田原市の場合は平成26年で451万人ということで、規模的にもかなり網走市の上をいっているわけですけれども、やはり箱根とか伊豆、それから富士方面への通過型、また、玄関口に当たってしまうということでは、網走市と同じ条件の中で、箱根だけとっても年間2,000万人の入込観光客数があるということで、2,000万人と比べるとやはり小田原市の451万人はかなり少ない状況なのだなということが思われました。

ただ、この小田原市が明確に1,000万人という入込客数の具体的な目標を決めて、さらに消費金額もお金の面でも明確な目標を決めて取り組みを始めた

ことで、平成28年には平成26年の451万人から594万人に143万人もふえているということは、やはり目標を明確にして動き出して、確かに結果が出ているのだなということを感じました。

また、小田原城天守閣のリニューアル後はさらに観光客がふえているということで、目標を決めて具体的に取り組む姿勢というのは網走市もやはり大いに学ぶべきものがあると感じました。

また、マーケティングとかプロモーションに力けた人材を採用した地域TMOも、新しい発想と最新の情報やそのテクニックを取り入れる、先ほどから出ているアプリとかそういったものも取り入れることによって、この観光客数増加の大事な要素になっているのではないかと思います。

また、小田原市の説明にはなかったのですが、体験型観光の具体的な取り組みと事前資料に記載があった「市民一人一人の『小田原自慢』が聞けるまち」ということについての具体的な取り組みの質問をさせていただきましたところ、体験型としては小田原城での忍者やお姫様の衣装を着ての写真撮影とか手裏剣投げが大変人気があって、小田原提灯づくりの体験とか農業体験もやっているという話も聞けました。

これを聞いて単純な発想で、網走市も監獄博物館での囚人服とか看守の服を着ての記念撮影とかそういったことも、足かせの体験とかそんなのもおもしろいのではないかなということも感じました。

また、「市民一人一人の『小田原自慢』が聞けるまち」については、現在進行中という話でしたけれども、小田原市内の市民の方が自分のお勧めの観光スポットを市民の皆さんに出してもらって「あなたの推しスポ」というのを7月に募集をしたところ、既に現在700くらい集まっていて、これを30に絞って、11月に「推しスポ」総選挙を行う予定だということをお教えいただきました。

この総選挙は、AKB48のそれを使ってということだと思うのですが、こういった発想もすごくいいなと思ひまして、私も前から網走市のいい所はと聞かれても、みんな「網走なんて何もない」と答えるのがとても気になっていましたので、このような取り組みはもうぜひ網走市でも、形を変えてでもやってみたいと思ひました。

またさらに、「小田原さんぽ」のアプリは英語と中国語にも対応していて、約600箇所の観光スポットを紹介して、CGで一夜城なども見られるという

新しい発想と最新の技術を取り入れたそういった手法というの、網走市もぜひ参考にしていきたいと思いました。

次に、厚木市の「ぼうさいの丘公園」のほうなのですが、皆さん言われましたけれども余りの広さに驚くばかりというか、実際に行ったのは「ぼうさいの丘公園」だけなのですが、地図を見るとその周りにさらにもうものすごい規模のさまざまな公園とか施設がつくられていて、そして2万人が避難できるという、本当にすごいなということで、それがまたふだんは市民に開放されて、私たちが行ったときも何名かの市民の方がいらっしやいましたけれども、多くの市民に親しまれているということで、何かあったときもすぐそこに行けるというその感覚が日ごろから培われているということで、そういったあり方もすばらしいと思いました。

また、私が1番感動したのは、先ほどもありましたけれども、備蓄倉庫に保管されている物資の備蓄状況が一目でわかるようにこの大きな表になっていて、それが管理されている点がやはりすばらしいなと思いました。

内容的には、2万人の3日分の食糧を初めとして、さまざまな資機材とか、市内48カ所の指定避難場所へのサポート物資なども本当に膨大な物資が保管されているにもかかわらず、その管理がともしっかりしているということ、また車いすの人でも使える簡易トイレもあることに、本当にそういう点にも配慮ができているということは、すばらしいなと思いましたし、網走市は本当に災害が少ないということで、なかなかそういった点ではこの臨場感を持つての防災対策というのが難しい点もあるかと思いましたけれども、姉妹都市でもありますし、しっかり学んで網走市でも今後の防災対策に反映させていきたいと思いました。

以上です。

**○川原田英世委員** はい、それでは私のほうからまずコミュニティバス「はむらん」についてですが、交通空白地帯ということで西東京バスの運行外のエリアで行われているというところで、ターゲット、目的を明確にして運行されているというところが最も大事なところだったのかなというふうに思います。

なので、100円という価格、子供も同率にということも、ターゲットとどういう方に利用してもらいたいのかということの問題認識と対象がしっか

りと共有されていてこの運行が行われているということが最も重要で、網走市と状況は違いますけれども、網走市も今後さまざまなコミュニティバス等を進めていく上でも、やはりそういった観点をしっかりと持って進めていくということが大事だろうなということを強く感じさせていただいたところであります。

次に、小田原市の観光戦略ビジョンについてですが、これはやはり観光の取り組み、進め方にハードとソフト両方あると思うのですが、非常にソフトに力を入れているということが見てよくわかりました。

なぜ新しいテクノロジーを運用するということはもちろんですが、職員の人もソフトの部分でいろいろと知恵を出しながら取り組んでいると内容を見ていると、もちろんアプリソフトだとかをつくるのはお金や経費はかかっているかなとも思いましたが、それ以外のところは結構職員の方たちの努力で費用もたいしてかかっていない、けれどもすごく効果がある、本当にアイデア勝負をしているのだなというところを強く感じました。

やはり、地域でこれから観光を盛り上げていこうというふうになると、やはりマンパワーそういったソフトをつくっていく人の力、アイデア、逆転の発想をしていくものの見方、そういったものがこれから非常に求められるところだなと思いますので、その点に関して非常に大きく参考になりましたし、若手の職員が自分のやりたいと思ったことを自由にできるという環境も、これから非常に重要になってくると思ひ、参考になりましたし、まずその点も含めて非常に参考になったなというところで勉強させていただきたいなと思っております。

次、厚木市の「ぼうさいの丘公園」ですが、本当に日常的にはもう公園なのですよね、子供たちが遊ぶ場所としてあるところが、そういった災害の状況になれば、受け入れ機動的な役割を果たす場所になるということで、やはり生活の中にそういった場所がしっかりと溶け込んでいる両方の側面を持っているというのはすごく重要だなというふうに思います。

やはり日常の中にあるからこそ、すぐ何かあったらあそこに行くということがわかるだとか、東日本大震災のときもそういったことが大きく、被災被害の大きさに影響したというふうにも伺っていますので、生活の中に溶け込んでいながらもしっかりと役

割を果たす、そういった二重の機能を持った施設という意味での「ぼうさいの丘公園」というのは、非常に重要な観点ですし、これは、見方によっては逆転の発想でこういうことは、アイデアとして出てきて使われていると思いますので、網走市とは状況は異なりますから、こちらは冬の間ということになると公園という形もなかなか難しいとは思いますが、そういった二重の考え方、いろいろな観点から、防災についても考えていかななくてはいけないという意味で、非常に勉強になったなというふうに思っております。

以上です。

**○立崎聡一副委員長** 皆さんいろいろお話をされましたけれども、ほぼほぼ感じているところ、見ているところは一緒かと思えます。

公共交通のあり方については、やはりかゆいところに手が届くということが重要なのだろうなという意味合いが強く感じられましたし、そういうところを今後、網走市にも生かしていけばよろしいのではないかと、今後考えていく上ではその辺をきちんとしていかないとダメなのだろうなというふうに思いました。

それから、小田原市の観光ビジョンなのですが、やはりまだまだ道半ばなのだろうなという感じが僕はしました。

網走市と似たような通過型というお話をされましたけれども、観光客の入り込みはまだまだ伸びるというふうには思えます。

それは観光に対しての公共交通、道路という言い方も変なのですけれども整備がされているのですとか、JRですとか、交通機関がきちっとされている、観光交通機関がかなり充実してきているのかなというふうに正直感じました。

その部分は、また別な角度で考えていかなければならないので、それ以外の部分でもきちんと目標を明確に持っているということはずごいなということで、それに向かっていくことを私たちも努力しなければいけないというふうに思いました。

それから最後に厚木市なのですが、相当揺れるのでしょねあそこのまちは、というのが第一印象でした。

というのは、「ぼうさいの丘公園」も、中もすばらしく充実されていましたし、しっかりしているなということを感じたのですが、市の庁舎の建てかえのお話をされたときに、「えっ」というふうに思っ

たのですけれども、ただやはり網走市と違うのは地震の多さというのは格段に違うのだろうなというふうに感じました。

それに対して、どのように市民の意識を向上させるか「ぼうさいの丘公園」のような場所を、市内各所にどのように置いていくのか、そしてふだんから使われているというふうに先ほど川原田委員もおっしゃっていましたが、公園のような形でやるというのはすごく理想的なのだろうなというふうに思いました。

いずれにしても、まだまだ網走市としても取り入れなければいけないこと、それからやっていかなければいけないことは感じましたし、とても参考になる視察だったというふうに思います。

以上です。

**○金兵智則委員長** それでは最後に私からも、各委員の皆さんからも御意見いただきましたので、重複している点は多々あるという感じはしますけれども、羽村市のコミュニティバス「はむらん」につきましても、やはり委員の皆様が話されましたニーズ状況の調査というのに力を入れていて、それに伴った運行をすることによって乗客数をふやしているという実績が出ているのかなと思いました。

やはりこの部分、ニーズ状況の調査を把握というのはとても重要な部分で、網走市には若干欠けている部分もあるのかなというふうに思いますので、網走市で参考にできる部分は参考にしていければなと思っております。

観光戦略ビジョン、小田原市につきましては、共通する部分、似ている部分が多いのかなというふう感じたところもありました。

観光といった面では、網走市のほうが進んでいる部分もあるのかなというふうには思いましたけれども、小田原市さんのほうがやはり目的・目標をはっきりと示しているという部分に、それに向けてどうするかというところがきちんとされているのかなと、あっちに行きこっちに行き、こんなこともやり、あんなこともやりというよりは、そのほうが明確に課題であるとか、今後の方向性というのが見えてくるのかなというふうに思いました。

ただ、多くやるのが悪いということでもないとは思いますが、その辺は取捨選択の部分だとは思いますが、参考にできる部分は多くあったのかなというふうには思っています。

あと、「ぼうさいの丘公園」の厚木市さんにつき

ましては皆様からおっしゃっていただいたとおりというふうに思います。

ただ、私自身は網走市の防災対策が決しておきているとは思わないという感じもします。

東日本大震災を契機に、備蓄ということに関してははかなり進んできているのではないかと、松浦委員からもありました、やはりお金のかかることですので、上を見ればもっともっとやってほしいという部分も、実際はなきにしもあらずです。

ただ、どこにどのようにというので考えた中で、今、適正な進め方はしてきているのではないかなと私自身は思っています。

ただ、ほかの部分、自主防災組織の研修ですか、避難所運営委員会の設置というようなことについては、そんなに予算をかけることなく行えることを網走市でもHUGというのが始まりましたが、より積極的にこういったソフトの面と云えばいいんでしょうか、こういった部分に関しても今後、より一層目を向けていかなければならないのかなというふうに感じた視察でございました。

最後に委員長として、何分ふなれだったので全委員の皆さんに御協力いただいた中で、視察を滞りなく終えられたことに感謝を申し上げまして、視察の報告についてはこれで終了したいというふうに思います。

なお、各委員のレポートをもとに、調査概要を添付し、後日議長あてに総務経済委員会行政視察の調査結果を提出したいというふうに思っております。

この件については以上ですが、何か言い忘れたことがある方はいらっしゃいますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

はい、なければ本年度は中止というふうにさせていただきます。

御迷惑をかけたことをおわびしたいというふうに思います。

秋季視察調査については以上です。

その他、委員の皆さんから何かありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

はい、なければこれで総務経済委員会を終了いたします。

お疲れ様でございました。

午前11時23分閉会

---

○金兵智則委員長 なければ、次に秋季視察調査についてであります。

10月30日に、本年度の秋季視察調査を実施する準備を進めてきておりましたが、当日、台風の影響による悪天候のため実施することができませんでした。

その後、正副委員長の間で延期という形を含め協議してまいりましたが、11月は会派視察や議員研修会、正副議長の公務などもあり、日程が詰まっていること、また第4回定例会も控えていることなどから、本年度はやむなく中止というふうな方向性で考えていたところでもありますけれども、何か御意見ある方いらっしゃいますか。